

## ♪「新春コンサート 2010」ぶらり訪問記♪

主催 音楽センターアコーディオン科 中部金曜教室

日 時 2010年1月17日(日)  
会 場 なかの芸能小劇場  
交 通 JR 中央線「中野駅」北口より徒歩5分、  
講 師 中山 英雄 / 編曲、指揮  
参加費 500 円

正月気分がまだ抜けない日曜日のひと時、2年に一度開いているといわれる「音楽センター金曜教室」のコンサートを聴きに行きました。会場は、邦楽、落語、お笑いライブなど芸能の振興のためにつくられたとかで、座席数は110とこじんまりしていましたが、客席が階段状になっていてとても見やすい劇場でした。満員の観客の中で幕が開きました。

オープニングは、講師も演奏に加わっての全員合奏「オブラデ・オブラダ」、軽快な演奏で始まりました。

まず、プログラムを見て演奏曲目一つ一つに丁寧な曲の紹介が載せてあり感心しました。全体でも、演奏者一人ひとりが自分の大好きな曲を演奏していたので、演奏への真剣さからその思いが伝わってきました。

また、男性だけで“ダンディーズ”を結成。首に黄色いスカーフを巻いて、アメリカ民謡「テキサスの黄色い薔薇」を合奏、一方女性達は“アンサンブル・プロシキ”を結成。赤い

バンダナを腰から下げ「赤いサラファン」を演奏するなど、見た目でも観客を楽しませていました。

ロシア民謡で「窓辺に散るチェリョームハ」という聴いたことのない曲がありました。失恋した乙女的心情を悲しく歌った曲とのコメントでした。“チェリョームハ”とは「みざくら」のことですと紹介があったので調べて



みました。インターネット上で写真のように

紹介されていました。(西洋ミザクラ)

今回、ビオラとアコーディオンの組み合わせで「バッハのメヌエット」の演奏がありました。他の楽器とアンサンブルをする方がでてきたことはこれからが楽しみです。後日、演奏者から『お互いの音を聴きあいながら一つの音楽を作っていくというのは、難しいけれどもとっても楽しい作業です。一緒に練習時間をつくるのも一苦労！でも憧れのデュエットを実現させたくて、月1回のペースで2年近く練習してきました』とアンサンブルへの想いをお聞きました。

演奏の中ではアンコールで演奏された「馬虻」(うまあぶ) ショスタコーヴィッチ作曲の全員合奏がまとまりもあり音に伸びがあって聴き応えがありました。(乙津:記)



オープニング演奏「オブラデ・オブラダ」の様子

